

栗山の魅力・元気を発信する一年に



栗山町長
佐々木 学

新年あけましておめでとうございます。栗山の皆様には、令和4年の輝かしい新春をご家族と共に健やかに迎えられることと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、東京オリンピック・パラリンピックでの日本選手団の頑張りに感動し、米大リーグ・大谷選手の記録的な活躍に心躍るなど、コロナ禍の中においても、スポーツの持つ力が私たちに元気を与えてくれた一年でありました。

本町においても、栗山ロッキーズが少年野球全国大会3位の快挙を達成するなど、栗つ子たちが文化・スポーツの各分野で活躍され、年末には、栗山英樹さんの侍ジャパン監督就任という誇らしいニュースも届きました。

また、本年には、女子硬式野球の元日本代表で主将を務められた金田起子氏を指導者に迎え、栗高女子硬式野球

部の設立が予定されており、栗山高校の新たな魅力づくりと生徒確保の一環として、官民挙げた挑戦を全国に発信していきたいと考えております。

さて、今年の干支「壬寅（みずのえ・とら）」には「新しい成長の礎となる年」との意味がありますが、今まさに、本町でも、栗山新時代の芽吹きとなる新たな事業が始まろうとしています。

現在、令和5年1月の開設に向け、新たな賑わいの拠点「栗山駅南交流拠点施設」の整備が進んでいます。本町の観光・食や「ものづくり」の魅力などを発信し、道内外からの集客拡大や、関係人口創出を図る複合施設として、その効果を商店街の活性化へと波及させてまいります。

また、懸案であった「旧継立中学校施設」についても、今般、活用事業者が決定し、キャンプ・農業体験などの体験交流施設として生まれ変わることに

となりました。世界的にアウトドア市場が成長する中、本町の自然・農村の魅力を発信する新たな拠点となるよう期待しています。

この2年間、コロナ禍により耐え忍ぶ月日が続きましたが、本年は、将来のまちづくりに直結する国道234号線整備促進や栗高女子硬式野球部設立など、官民挙げた取組を通じて、本町の魅力・元気を全国に発信し、交流人口から関係人口の創出へと、また、地域経済の活性化へと繋がる好循環を創出してまいりたいと考えています。

また、介護福祉学校の存続などの町政課題を解決へと導くとともに、人口減少・少子高齢化への対応、地域公共交通の確保、本町の基幹産業・農業を守るための生産基盤整備などにも、しっかりと取り組んでまいります。

輝かしい新年が、まさに本町の「新しい成長への礎」となるよう、職員一丸となり、今後も全力で町政を推進してまいりますので、町民の皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

結びに、長引くコロナ禍が一日も早く終息することを切に願いますとともに、本年が町民の皆様にとりまして、明るく健やかな年でありまますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

健賀新年

本年も
よろしくお祈りします

町長 佐々木 学
副町長 三浦 匠
ほか職員一同

◆議会
議長 鶴川 和彦
副議長 藤本 光行
議員 大西 勝博
友成 克司
佐藤 則男
土井 道子
佐藤 清己
千葉 源幸
三田 義崇
齊藤 武司
置田 千逸
鈴木 千逸

◆農業委員会
会長 吉田 寿栄
同代理 鳥村 正行
監査委員 谷田 進太郎
大西 勝博

◆教育委員会
教育長 吉田 政和
同代理 井上 博幸
◆選挙管理委員会
委員長 鈴木 英雄
同代理 古林 義弘

◆公平委員会
委員 坂口 由紀子
鳴海 秀樹
越前谷 徹

◆国民健康保険運営協議会
会長 北 輝男
同代理 橘 一也

◆都市計画審議会
会長 早坂 義幸
同代理 三田 源幸

◆社会教育委員
委員長 藤井 吉美
副委員長 田村 賢治
副委員長 原田 優司

◆スポーツ推進委員
委員長 岡山 典弘
副委員長 高石 賢治



町民とともに歩む議会を目指して



栗山町議会議長
鶴川 和彦

新年あけましておめでとうございます。輝かしい令和4年の幕開けにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げますとともに、健やかに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

さて、令和3年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年ではなかったでしょうか。1年の延期を経て開催された東京オリンピック・パラリンピックでは、日本選手の活躍に勇気と希望、そして感動をもらいました。一方で、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、感染拡大への不安や活動自粛により地域経済に多大な影響を及ぼし、町民の皆様それぞれのお立場で心身ともに悩み苦しんだ我慢の年であったかと思

います。このような中、本町の基幹産業であります農業は、夏場の高温続きと少雨により、畑作物については、収量が平年より下回るといった影響がありました。一方、水稲については3年連続の豊作となりましたが、需給の影響により米価が下落し、農業者にとっては厳しい年となりました。

また、農林水産省より「水田活用の直接支払交付金」の交付要件について、令和4年度から、今後5年間水張りをしていない水田を交付対象から除外するとの方針が示されました。これまで国の減反政策に基づき転作を進めてきた農業者にとって大きな影響を与えるものであり、本町の水田地域の崩壊に繋がらないことから、町をはじめ、町内農業関係団体と共に年明けに農林水産大臣へ「水田活用の直接支払交付金の見直しに関する要望書」を提出する予定であります。

いづれにいたしましても、農業者は

じめ商工業者の皆様にとりまして引き続き厳しい経済状況ではありますが、今後においても、農業団体、経済団体とともに連携し、議会基本条例の理念である町民参加を怠ることなく、皆様の声を町政に反映できるよう努めてまいります。

本町議会にとつては、昨年5月に議会基本条例制定15周年を迎えました。合わせて12月には議会の機動力強化のため、通年議会の導入を行うとともに、文書質問、さらには、常任委員会での代表質問の導入に至り、この節目の年に議会改革を止めることなく、議員個々の資質並びに議会力を高めていくよう議員一同気持ちを引き締めたところであります。

今後におきましても豊かな議会を目指し、議会改革の進化により町民に信頼され、町民とともに歩む議会づくりを継続して進めてまいります。

結びに、このコロナ禍の一日も早い終息を願い、新しいこの1年が町民の皆様にとって健やかで希望に満ちた明るい1年になりますことを心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。